

募集します！

平成28年度『提案型』協働事業

私たちの手で
もっと元気な
狭山市に！

市と一緒にこんな
ことをやって
みたい

市民の皆さんと市の協働を推進する手法の一つである「協働事業提案制度」は、市民生活が提案した事業と、市が設定したテーマに沿って提案した事業の二種類。市民生活が提案した事業は、事業内容によって補助金(50万円を上限)により経費を補助します。また、行政提案型協働事業は、募集テーマごとに予算設定する金額を上限として経費を支援します。

● 二種類の協働事業

【その1 市民提案型協働事業】
市民の皆さんが日々感じている公共的な課題をテーマとした、自由な発想による協働事業です。市と協働で実施したい事業を自由に企画・提案ください。

【その2 行政提案型協働事業】

市が解決すべき課題から、協働事業にふさわしいテーマを市が提案し、そのパートナーを募集します。28年度は次の4つのテーマにそつた事業の提案を募集します。

- ① 駅前発/楽しく学ぶ自分磨き講座：現代や地域の課題に関する講座を中央公民館で開催
- ② 男性の育児参加講座：父親の育児参加の促進を図るため、次の2つの講座を開催▼父と子を対象とする料理教室を1回以上▼父親の育児参加につながる内容の講座を2回程度
- ③ 障害者差別解消法の周知・啓発：周知・啓発のため、次の活動を行う▼チラシやポスター、パンフレットを作成▼一般事業所への周知を図るための方法を検討し、その検討結果に基づいた啓発活動を行う

● 事業実施期間

平成28年6月1日～29年2月末日

● 応募できる団体

5名以上かつ、その過半数が市内

● 書類の提出

詳細な応募要項と申請書は、協働自治推進課に用意ホームページからもダウンロード可しています。4月8日(金)までに応募ください。

● 経費の支援

市民提案型協働事業は、事業内容によって補助金(50万円を上限)により経費を補助します。また、行政提案型協働事業は、募集テーマごとに予算設定する金額を上限として経費を支援します。

● 書類の提出

詳細な応募要項と申請書は、協働自治推進課に用意ホームページからもダウンロード可しています。4月8日(金)までに応募ください。

● 「狭山市ふるさと納税制度」を始めます

「ふるさと狭山市」を応援するため、1万円以上のご寄附をいただいた方に、寄附金額に応じて返礼品などをお贈りする「狭山市ふるさと納税制度」が、4月1日(金)からスタートします。

狭山市の魅力が詰まったお礼の品々を現在準備中です。詳しくは、広報さやま4月号でお知らせします。問合せ財政課へ内線7113

● 「ASエルフェン埼玉」が交通安全広報大使に就任

1月29日(金)、市と狭山警察署は、ASエルフェン埼玉を「狭山市交通安全広報大使」に委嘱し、同チームの薊理絵選手に委嘱状を授与しました。

これから、チームの選手たちが、春・夏・秋・冬それぞれの交通安全運動で街頭キャンペーンやイベントなどに参加して、交通事故防止に向けた啓発活動などを行います。問合せ交通防犯課へ内線3692



● 「災害時における避難所炊き出し業務協力に関する協定」を締結

2月12日(金)、狭山市とシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社が、被災者の生活の早期安定を図ることを目的とした協定を締結しました。

この協定により、災害時に市の要請に基づき、同社が炊き出しと炊き出し食料の避難所への配送を行うことになりました。問合せ防災課へ内線3694



● 柏原ニュータウン地区の「地区計画」が都市計画決定されました

「地区計画」とは、地域の方が主体となって、一定の区域ごとにまちづくりのルールを定める計画です。当計画区域内で、建築物の新築や工作物の新設などをする場合は、工事着手の30日前までに「地区計画の区域内における行為の届出書」による届出が必要になりました。※計画区域は都市計画課でご確認いただけます。届出方法届出書(都市計画課に用意。ホームページからもダウンロード可)を同課へ提出。問合せ都市計画課へ内線2223

ONE for All 市長が走る! ⑥

総合計画が動き出します

寒い日が続きましたが、ようやく街のあちらこちらで春の息吹を感じる季節になりました。

さて、今年には狭山市の今後10年のまちづくりの基本的な指針となる第4次総合計画のスタートの年です。人口減少、少子高齢化など避けて通ることのできない課題が山積しています。特に人口の動向は皆さんも関心が高いと思います。人口の推移は出生数と死亡数の差や転出入の差で分かりますが、狭山市では非常に残念なことに、出生数よりも死亡数が多い状況が平成22年から続いています。そして、去年は年間出生数が979人と、これまで維持してきた千人を割り込んでしまいました。

一方、景気低迷の影響も大きな理由であると思いますが、過去20年間にわたって、転入者数より転出者数が多い「社会減」の状態が続いていました。しかし、平成18年以降、状況が改善されはじめ、ついに去年は転出入の差がちょうどゼロになりました。人口の増減に一喜一憂はできませんが、総合計画の事業を着実に進め、若い世代の人口流入が進む、活力にあふれたまちづくりを進めてまいります。



活力の源である企業の誘致も継続します(新規立地企業への訪問)

市長の主な動き

- 2/1・2・9・15・16・18...企業訪問
- 2/5...都市計画審議会
- 2/6...社会福祉大会
- 2/8...川越狭山工業会市政懇談会
- 2/10...埼玉西部消防組合議会定例会
- 2/12...広域飯能斎場組合議会定例会、防災協定調印式
- 2/16...総合計画審議会
- 2/18...総合教育会議
- 2/23...定例記者会見
- 2/24...市議会第1回定例会



狭山市の良いところ「お宝探」と、環境にやさしい自転車活用促進を目的に、「サイクルリングフェスタ」を4回開催。作成したサイクルリングのガイドマップを持って、自転車で市内を走り、狭山の魅力を再発見できました。

市民提案型協働事業を3年間実施し、現在も事業を継続している会の声です。24・26年度市民提案型協働事業「さやまサイクルタウン構想」狭山まちづくりリストの会 市民提案型協働事業として3年間、狭山市の良いところ「お宝探」と、環境にやさしい自転車活用促進を目的に、「サイクルリングフェスタ」を4回開催。作成したサイクルリングのガイドマップを持って、自転車で市内を走り、狭山の魅力を再発見できました。

今年度は、「さやまチャリんこフェスタ」と名称を変更して、入曽地区を中心に走りまわった。道路交通法が改正され、自転車走行の罰則が厳しくなつたため、事前に市とともに自転車講習会を2回行いました。

市民提案型協働事業の期間が終わり、運営資金を確保する難しさもありましたが、ガイドブックの広告収入などで継続することができています。それぞれの足りないところ、苦手な部分を補い合い協働できて、自立して活動できるようになりました。

問合せ協働自治推進課へ 内線2511